

。精神衛生に効果あらしめる。

難聴児及びろう児の

鑑別基準（文部省原案）

一、聴力欠除するか又は欠除に近いものを「ろう」とし、聴力欠損のあるものを難聴とす。

二、鑑別

聴力障害の状態を聴力計による話声音域の聴力損失測定か又は話声語及び囁語検査による聴取距離の計測によって次の如く分つ

基準A 軽度難聴

聴力欠損が軽微で聴力欠損が 30db 以下であるか、又は話声語を 4.5m 以上囁語を 0.5m 以上で聴き得るもの

基準B 中等度難聴

聴力欠損が中等度で聴力損失が 30～50 db であるか、又は話声語を 4.5～1.5m 囁語を 0.5m 以下で聴き得るもの

基準C 高度難聴

聴力欠損が高度で聴力損失が 50～80db であるか又は話声語を 1.5～0.2m で聴き得るもの
基準D ろう

聴力欠除するもの及び聴力欠損が極めて高度で聴力損失が 80db 以上であるか又は話声語を 0.2m 以下でかろうじて聴き得るか或は殆んど聴き得ぬもの。

三、就学猶予

聴力障害が治療可能な疾患によるもので、その治療に数カ月を要するものについては就学猶予を考慮する。

四、就学免除なし

五、施設

(a) 基準A、基準Bに該当するものは適当な配慮のもとに普通学校で教育する。

(b) 基準Cに該当するものは

(i) 言語を可成り習得しており補聴手段によって普通学習に十分耐え得るものは普通校の難聴学級で教育し若し補聴手段のみで不十分なものは特に読話を加味する必要があるのであろう。

(ii) 言語をある程度習得しているが、補聴手段によっても普通学習にたえ得ないのはろう学校で教育する。
(iii) 基準Dに該当するものはすべてろう学校で教育する



